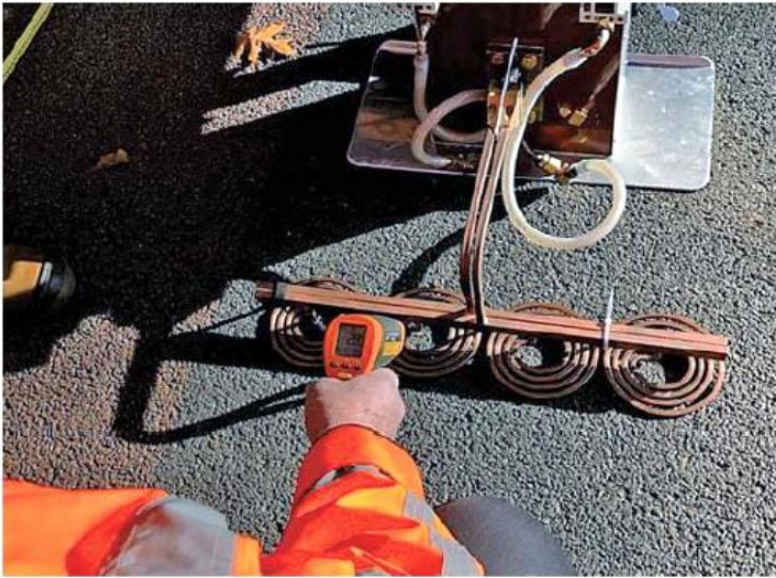


大成ロテック、會澤高圧コンクリート



自己治癒アスファルト舗装のひび割れを加熱で修復する様子

テック敷地内で試験舗装を実施する予定。実用化すれ

今後は2020年3月ま

大成ロテックとコンクリートの開発などを手掛ける會澤高圧コンクリート（北海道苫小牧市、會澤祥弘社長）は、ひび割れが自然に修復する「自己治癒アスファルト」の開発に着手した。自己治癒アスファルトはオランダ発の技術。国内の舗装にも適用できるよう、混合する特殊材料の配合などを研究する。大成ロテックによると自己治癒アスファルトの開発に向けた研究は国内初という。

ばアスファルト舗装の長寿命化が図れるようになる。自己治癒アスファルトはオランダのデルフト工科大学土木工学部のエリック・シュランゲン教授が開発した。加熱アスファルト混合物にカプセル状の特殊な材料を混合して製造する。舗装後、比較的初期に表面がひび割れると、カプセルの中身も一緒に流れ出て割れ目を自然に修復する仕組み。さらに経年劣化が進んでひび割れた場合は、舗装表面を加熱することで修復する。

オランダでは排水性舗装のポーラスアスファルトが一般的なのに対し、日本では密粒度アスファルトが主流。オランダで開発された自己治癒アスファルトを密粒度アスファルトに適用できるようにする。当面は特殊材料の配合や、経年劣化によるひび割れを修復するための加熱機械の開発などが課題となる。

ひび割れ 自然修復 自己治癒アス開発着手

研究に当たり、大成ロテックと會澤高圧コンクリートの関係者は10月29日から11月2日にかけてオランダで自己治癒アスファルトを視察した。実際の道路でのアスファルト舗装のひび割れを修復する自己治癒の実演に立ち会ったほか、強制修復のための加熱システム（インダクションヒーリング）の実機の操作状況などを視察した。